

廃棄物から資源をつくる

加山興業プラント川を見学

愛機工 他産業視察を開催 青年部



加山興業RPFプラントにて

「私どもは七〇〇〇は全く逆の工程で、当社をなくす」お客様が面倒と思つてくることを徹底的に当社の廃棄物処理業を通じて、お客様に満足をしていただくような取り組みをさせていただいています。本日は全現場稼働していますので、皆様

愛知県機械工具商業協同組合(理事長 伊藤高潤氏・春日鋼機社長)の青年部(部長 森庸一氏・森西社長)は3月8日、他産業視察(研修担当幹事 椎葉照義氏・カツヤマキカシ)を行い、11名が参加して愛知県豊川市にある「加山興業豊川プラント」と岡崎市の「まるや八丁味噌」を訪ねた。

加山興業は、昭和36年(1961年)の設立以来、どこでも頑固なゴミ屋さんを含む産業廃棄物の徹底した適正処理に取り組み、リサイクル率の向上を目指している企業。加山順一郎社長が、一行を出迎え、「私どもは七〇〇〇は全く逆の工程で、当社をなくす」お客様が面倒と思つてくることを徹底的に当社の廃棄物処理業を通じて、お客様に満足をしていただくような取り組みをさせていただいています。本日は全現場稼働していますので、皆様

には色々なものが入ってきます。それを全てバラし単品ごとにし、徹底的にリサイクルにこだわった処理をしています。地球環境が悪化する一方の中で、当社のようなところでゴミを次世代のエネルギー源(資源)として取り扱っていく活動をしています。どこでも頑固なゴミ屋さんをキツチフレースに徹底的にリサイクルにこだわ

り、法律を守って、お客様のために、地球環境のため、次世代に美しい地球環境を残していくために仕事をさせていただいています。その精神を残しつつ、現在では「お客様の不(不満、不安)不快、面倒(さいな)をなくす」お客様が面倒と思つてくることを徹底的に当社の廃棄物処理業を通じて、お客様に満足をしていただくような取り組みをさせていただいています。本日は全現場稼働していますので、皆様

動選別ではなく、徹底的に入海戦術で仕分け作業が行われていた。埋め立て用にしまった方がコストは掛からないが、ここでは手間暇かけて選別作業をし、可能な限りリサイクルに努める様子が見えた。

Actual Refuse Paper & Plastic Fuel」とは古紙や廃プラスチックなどを主原料とし、適切に分類・破碎し成形加工して製造された循環型環境保全エネルギーのことで、石炭に代わる固形燃料として注目されている。RPFプラントでは、選別されたプラスチック、可燃ゴミを配合して石炭と同等のカロリー

に調整、有害な化学物質等が含まれていないことを測定器で確かめ、販売している。月産約1000トン。

焼却プラントでは、可燃ゴミを回収したフロン類などを焼却。パッチ炉でゴミを不完全燃焼させてガス化し燃やす。この熱を汚泥の乾燥などに利用している。また焼却時、炉内にフロンガスを噴霧してフロン類を破壊し無害化している。

その他、同社の収集運搬車両はGPSで管理され、不法投棄のないことをユーザーが確認できるシステムを構築している

と説明され、実際に車の位置を確認できる画面も見ることができた。

見学後の質疑応答で、加山社長は「モノづくりは人間と言うならば動脈で、我々の廃棄物処理は静脈、動脈があり、静脈があつて初めて、血液は循環します。どちらかが太くても、細くてもいけない。我々の業界は迷惑

施設と言われがちですが、廃棄物処理業として世の中に必要とされるものでないといけません」と意識しています」と話し、現在80%のリサイクル率を将来的には90%、さらにそれ以上を目指すことを目指すと意欲的に話した。

加山興業見学後は、豊川稲荷を参拝し、昼食をとった後、NHKの朝ドラの撮影が行われた。延元2年(1337年)創業の老舗「まるや八丁味噌」で、昔ながらの伝統製法を守り抜いている同社の味噌作りの工程を見学。

見学後は、試食と買い物を楽しみ、土産を手土産に就いた。